

大腿骨近位部骨折骨接合術を受けられる患者さまへ

患者様用

患者氏名：

担当医：

受持看護師：

受持理学療法士：

月日（日時）	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ ~ /	/ ~ /	/ /
経過（病日等）	入院日	手術当日	術後1日	術後2日	術後3日	術後4日目	術後5日目～9日	術後10日目
達成目標	◆手術の必要性が理解でき、手術に同意している ◆手術前の準備が整っている ◆転院基準を理解でき、同意している	◆手術の準備が整っている ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆痛みがコントロールできる ◆術中、術後の循環動態が安定している 	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆ギャッジアップにて座位保持できる	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆介助にて端座位保持ができる 	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆介助にて車椅子へ移乗ができる	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆介助にて車椅子へ移乗ができる	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆介助にて車椅子へ移乗ができる	【退院基準】 ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆下肢のしびれや冷感がない ◆痛みがコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆介助にて車椅子へ移乗ができる ◆退院後の生活の注意点が理解できる
治療・薬剤（点滴・内服）	持参薬の確認をします	麻酔科医の指示で内服薬の調整をします 手術後に500mLの点滴が2本と抗菌薬の点滴が1本あります。	朝夕抗菌薬の点滴があります 骨粗鬆症治療薬（活性化ビタミンD製剤）の内服が始まります				術後7日目に骨粗鬆症治療薬（骨吸収抑制剤）の内服があります。起床後内服します。	
処置	手術する部位を間違わないように手術をする足に医師がペンで印をつけます 手術当日に弾性ストッキングを装着するのでふくらはぎの測定をします	手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します 手術後にフットポンプを装着します			創部のガーゼを除去します 			
検査	必要に応じて血液検査や心電図、肺機能検査があります		血液検査があります				術後7日目に血液検査とエックス線撮影、骨密度を測定する検査を行います	
活動・安静度		手術後3時間はベッド上安静です	ギャッチアップによる座位保持訓練をします 	介助にて端座位保持訓練をします	介助にて車椅子移乗訓練をします 		→	
食事	夕食まで食事ができます	朝昼は絶食です 手術後3時間経ちましたら看護師がお腹の動きを確認し飲水や食事が開始となります	通常の食事になります					
清潔	入浴をします		看護師が身体を拭きます	→ 	術後3日目以降にガーゼ除去後シャワー浴可能となります	→		
排泄		手術後、尿の管が入ってます	尿の管を抜きます 状態に応じて排泄介助をします					
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導	手術の同意書等を看護師が確認いたします 麻酔科医師が診察いたします 手術室看護師の訪問があります 理学療法士がリハビリの計画をいたします 薬剤師が薬についての説明をいたします 転院先の希望等について確認いたします 入院費に関するご心配事がありましたら、お早めに医事科6番窓口にご相談ください	担当医が手術の結果について説明いたします。必要時家族へ直接または電話で術後説明します。 	リハビリを始めます 退院支援担当看護師が転院調整を開始します				本日の骨粗鬆症治療薬は、吐き気や胃不快感が出やすいため、内服後1時間程度は横にならないようにしましょう 退院前日に看護師が概算の連絡をいたします 	看護師が退院指導をいたします

注) 入院期間については現時点で予想される期間です。

国立病院機構熊本医療センター 整形外科 2024年11月改訂